
令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果 の活用による指導改善に向けた説明会

本日の内容

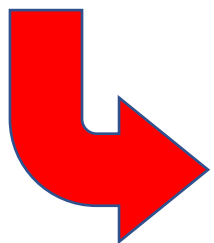
- 1 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果（教科）概要
- 2 児童生徒質問紙調査（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等）の結果概要
- 3 児童生徒質問紙調査（国語、算数・数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度）の結果概要
- 4 児童生徒質問紙調査（学校適応に関する質問事項）について
- 5 先生方をお願いしたいこと

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえた上で、各学校においては、本調査の結果を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが大切です。



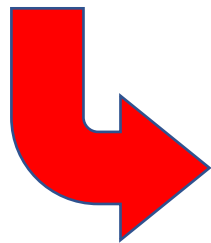
教科調査だけでなく、児童生徒質問紙調査で見られた、全国や本県全体の傾向、各学校の状況を確認し、調査対象学年以外の児童生徒の指導に生かしていただきたい。

調査事項

教科に関する調査

- (ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。
- (イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に利用できるようになっていくことが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- (ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

教科調査の問題については、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなるよう出題されています。



教科調査の調査結果を分析し、把握した課題を授業改善につなげることにより、学習指導要領の内容をより確実に定着させることにつなげることが大切です。

Ⅰ 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果（教科）概要

		国語		算数・数学	
		全国	奈良	全国	奈良
小学校	平均正答数（問）	9.1/14	8.6/14	11.2/16	11.1/16
	平均正答率（％）	64.7	61	70.2	69
中学校	平均正答数（問）	9.0/14	8.7/14	9.1/16	8.7/16
	平均正答率（％）	64.6	62	57.2	54

小学校においては、

国語の調査において、全国平均正答数を0.5ポイント下回っている。

算数の調査において、全国平均正答数を0.1ポイント下回っている。

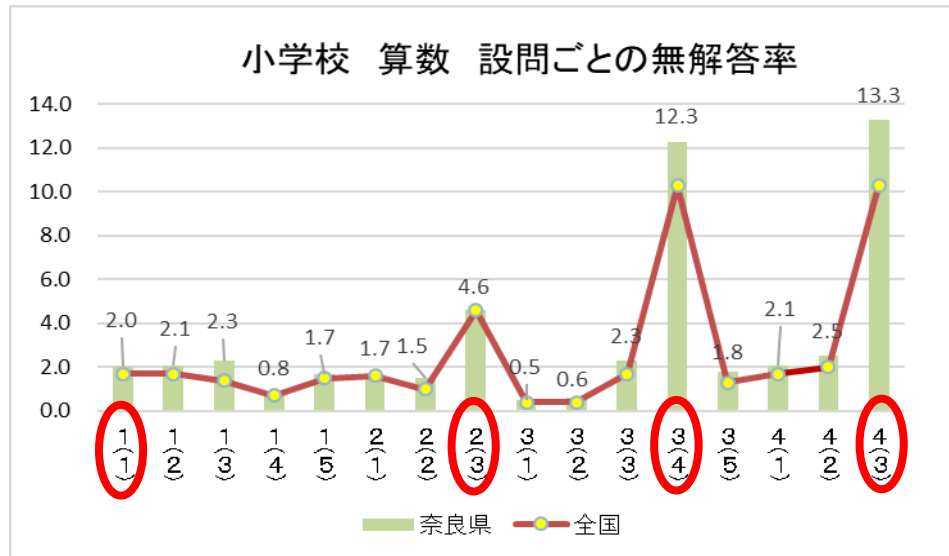
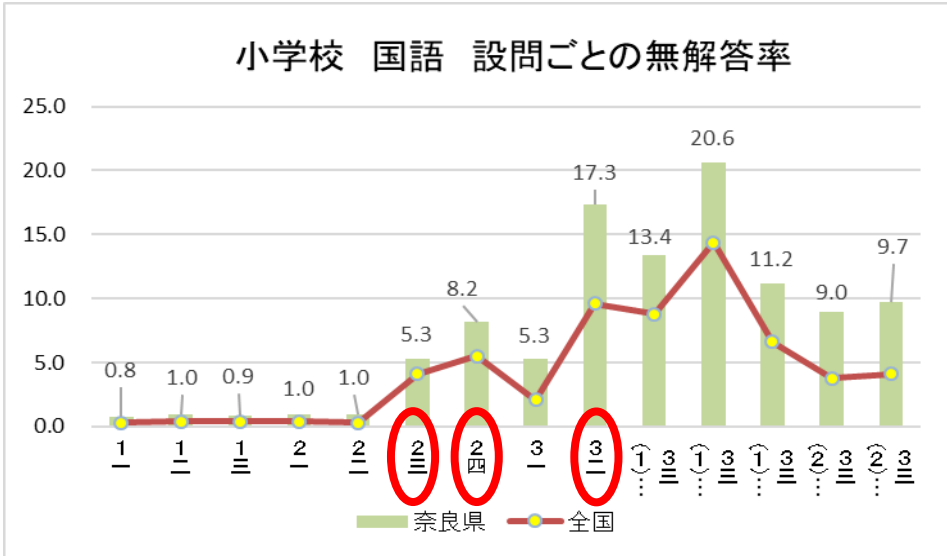
中学校においては、

国語の調査において、全国平均正答数を0.3ポイント下回っている。

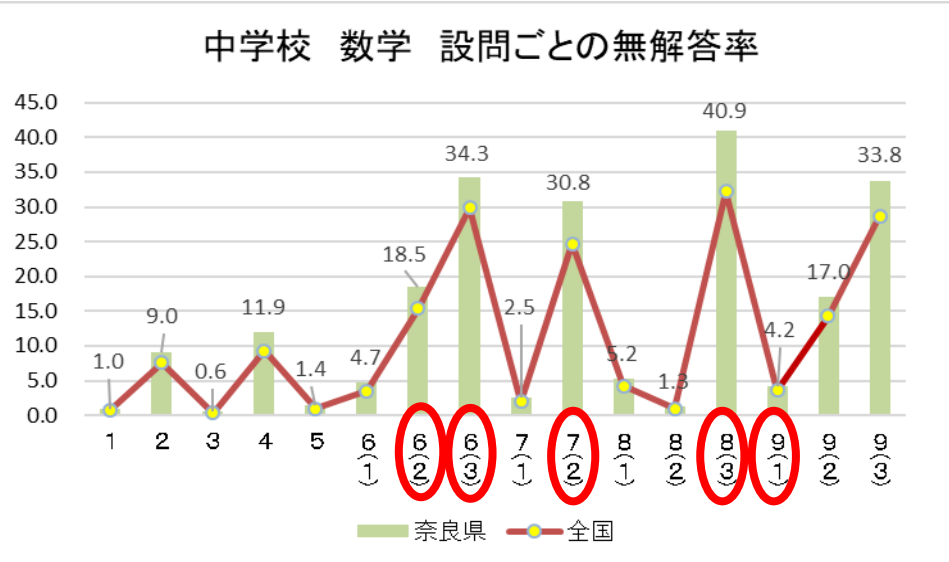
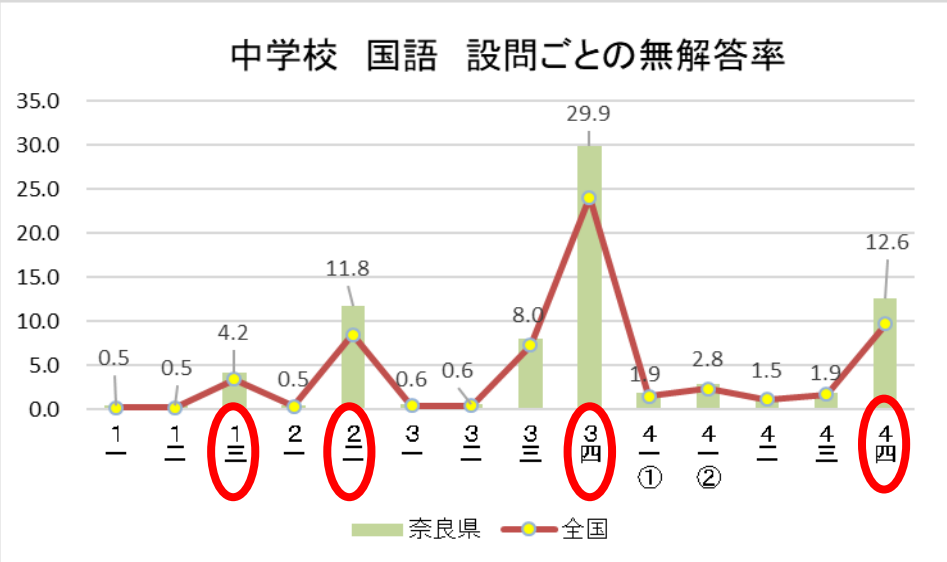
数学の調査において、全国平均正答数を0.4ポイント下回っている。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果（教科）概要

各教科における無解答率



○ 記述式



学校種、教科に関わらず、記述式の問題において無解答率が高い傾向がある。

1 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果（教科）概要

調査問題に関する質問紙調査の回答状況より

〈小学校児童質問紙調査より〉

質問番号	質問事項		奈良県	全国	差
51	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	1 全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	78.4	81.3	-2.9
		3 書く問題は全く解答しなかった	2.3	1.8	0.5
68	解答時間は十分でしたか（国語）	1、2 時間が余った、ちょうどよかった	53.1	70.3	-17.2
		3、4 やや足りなかった、全く足りなかった	46.3	29.2	17.1

質問番号	質問事項		奈良県	全国	差
60	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか	1 全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	78.3	79.9	-1.6
		3 書く問題は全く解答しなかった	1.8	1.5	0.3
69	解答時間は十分でしたか（算数）	1、2 時間が余った、ちょうどよかった	78.4	81.7	-3.3
		3、4 やや足りなかった、全く足りなかった	20.9	17.8	3.1

〈中学校生徒質問紙調査より〉

質問番号	質問事項		奈良県	全国	差
51	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	1 全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	68.6	73.7	-5.1
		3 書く問題は全く解答しなかった	3.7	2.9	0.8
68	解答時間は十分でしたか（国語）	1、2 時間が余った、ちょうどよかった	75.9	75.3	0.6
		3、4 やや足りなかった、全く足りなかった	23.8	24.5	-0.7

質問番号	質問事項		奈良県	全国	差
60	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	1 全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	52.0	57.8	-5.8
		3 書く問題は全く解答しなかった	6.6	5.2	1.4
69	解答時間は十分でしたか（数学）	1、2 時間が余った、ちょうどよかった	86.1	80.5	5.6
		3、4 やや足りなかった、全く足りなかった	13.6	19.2	-5.6

学校種、教科に関わらず、最後まで解答を書こうとする児童生徒の割合が低い傾向にある。
 小学校国語において、解答時間が足りないと感じる児童の割合は、全国と比較してかなり高い傾向にある。

2 児童生徒質問紙調査（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等）の結果概要

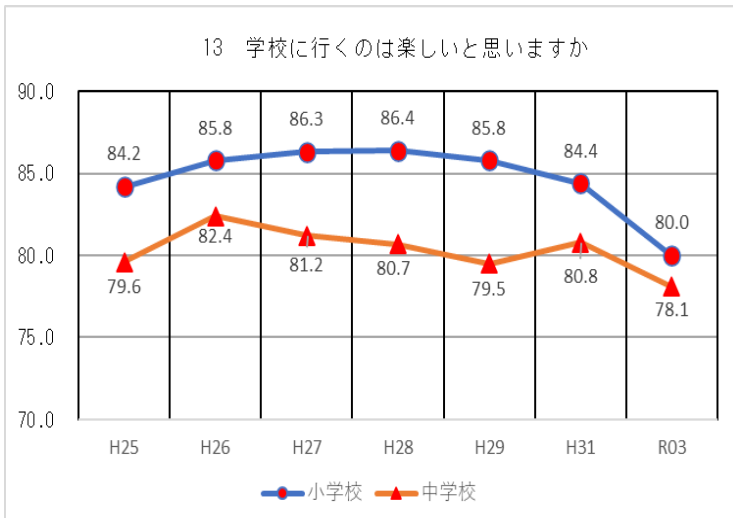
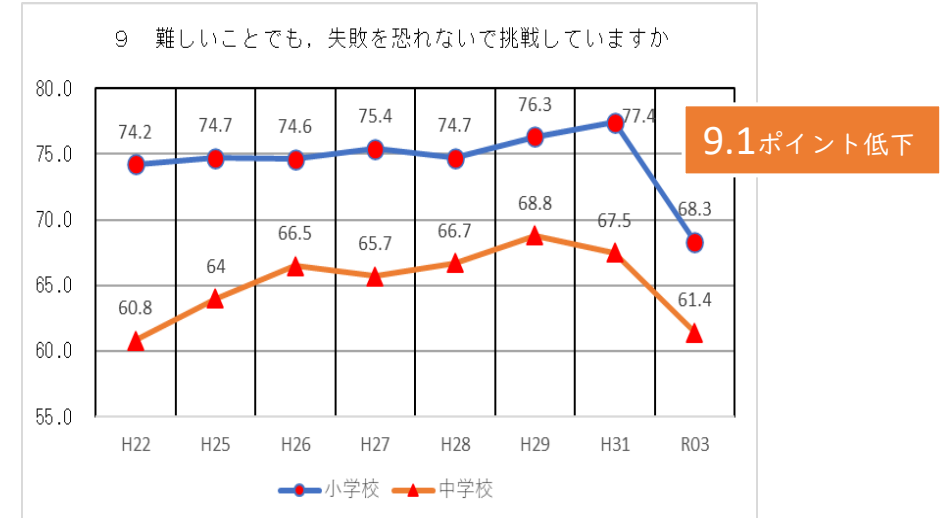
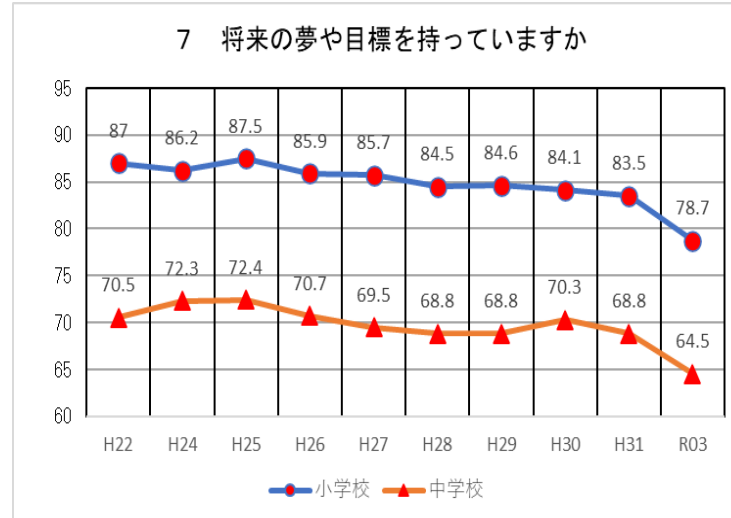
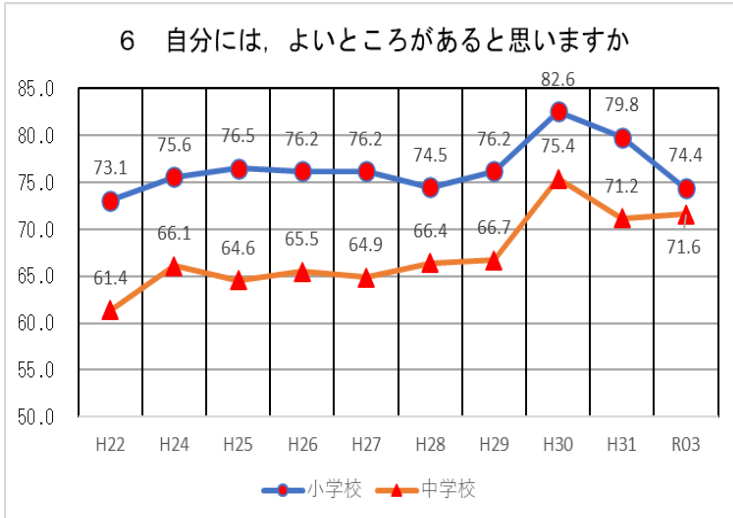
質問事項（数値は肯定的回答の割合）	小学校			中学校		
	奈良	全国	差	奈良	全国	順
6 自分には、よいところがあると思いますか	74.4	76.9	-2.5	71.6	76.2	-4.6
9 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	68.3	70.9	-2.6	61.4	65.9	-4.5
13 学校に行くのは楽しいと思いますか	80.0	83.4	-3.4	78.1	81.1	-3.0
14 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	64.6	70.3	-5.7	68.3	75.2	-6.9

○「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等」に関わる質問事項について肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに、全国と比較して低い傾向にある。

○平成31年度調査と比べて児童生徒の肯定的回答の割合が低下した質問事項があった。

2 児童生徒質問紙調査（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等）の結果概要

〈平成31年度調査と比較して肯定的回答の割合が低下した質問事項〉



小学校「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問では、平成31年度と比較して、肯定的回答をした児童の割合が9.1ポイント下がり、平成22年度以降最も低い。

挑戦心、自己有用感や学校適応に関する調査結果は、前回調査と比較して、全国、奈良県ともに肯定的回答の割合が低下する質問があります。



調査対象学年以外の児童生徒の状況についても、学校全体で状況を把握し、指導に生かしていただきたい。

3 児童生徒質問紙調査（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）の結果概要

質問事項（数値は肯定的回答の割合）	小学校			中学校		
	奈良	全国	差	奈良	全国	差
32 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.7	63.5	-3.8	52.7	62.0	-9.3
33 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	75.3	78.2	-2.9	76.4	81.0	-4.6
35 これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	78.6	81.4	-2.8	71.4	74.3	-2.9
38 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	74.7	78.3	-3.6	68.2	74.6	-6.4

○「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」に関わる質問事項について肯定的な回答をした児童生徒の割合は、年々改善傾向にあるが、依然として小・中学校ともに、全国と比較して低い傾向にある。

3 児童生徒質問紙調査（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）の結果概要

（児童生徒質問紙調査の質問事項における、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率）

選択肢

■ 当てはまる

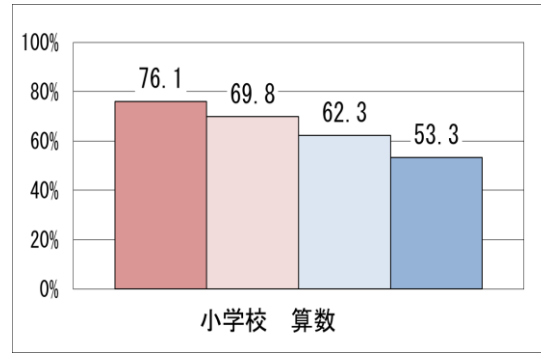
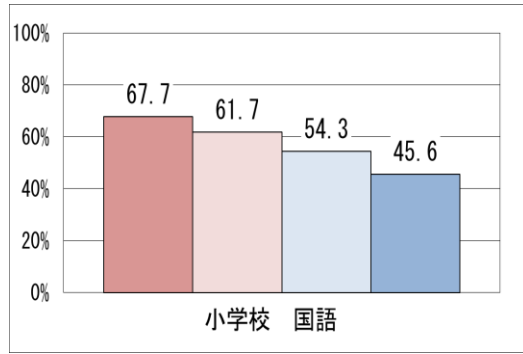
■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない

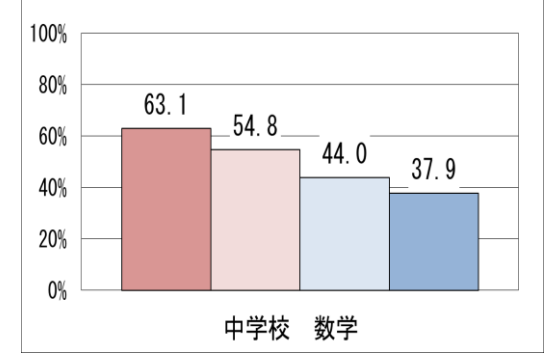
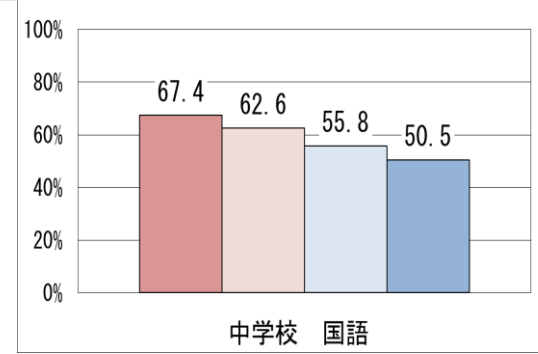
■ 当てはまらない

33 5年生までに（1、2年生の時に）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校

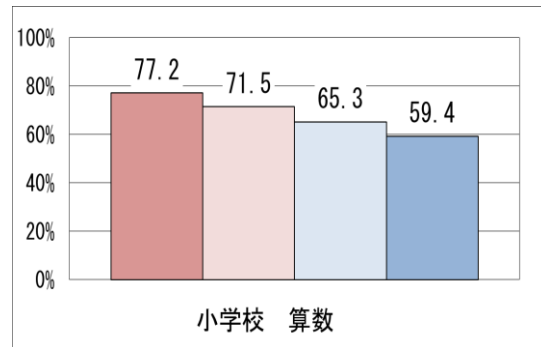
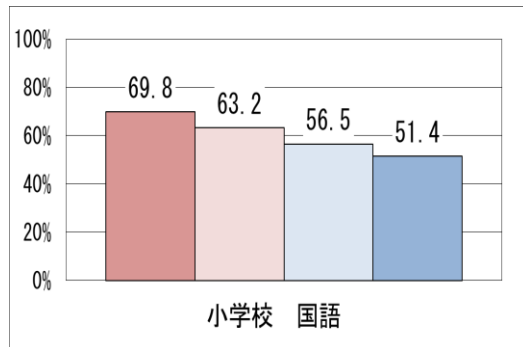


中学校

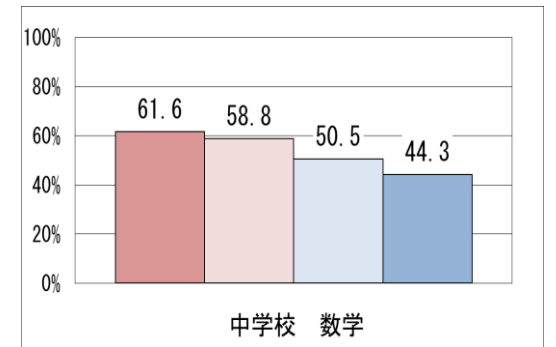
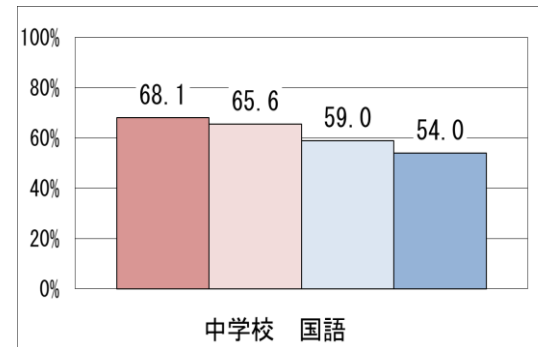


32 5年生までに（1、2年生の時に）受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

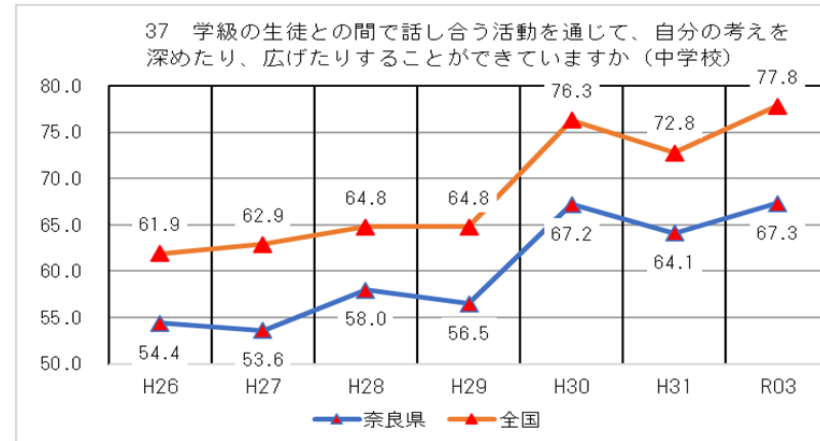
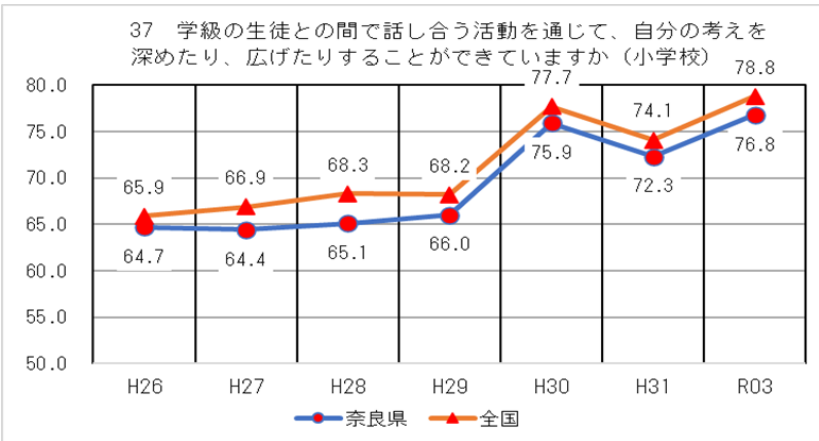
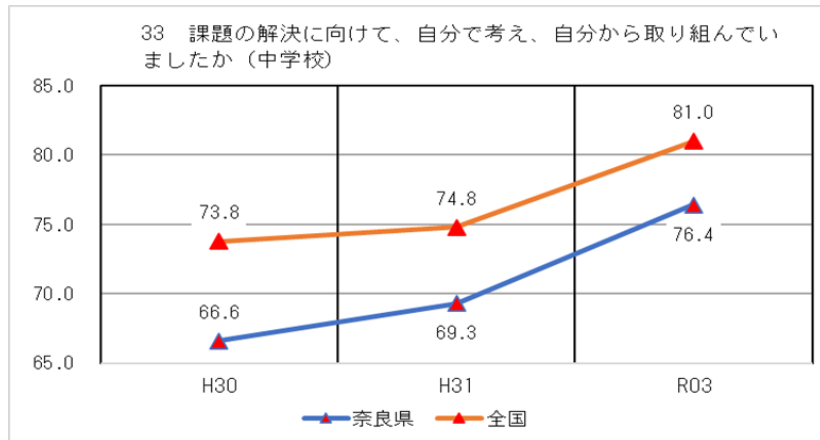
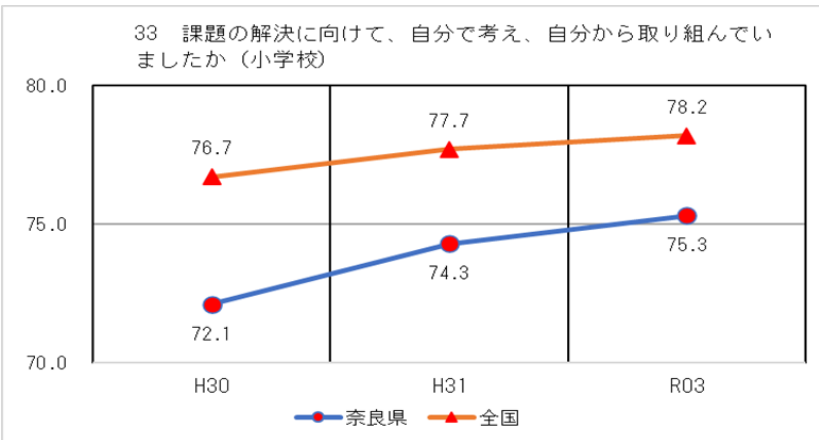
小学校



中学校



3 児童生徒質問紙調査（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）の結果概要



○「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況」の質問事項に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると課題が見られるが、年々改善傾向にある。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む必要性

3 児童生徒質問紙調査（国語、算数・数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度）の結果概要

質問事項（数値は肯定的回答の割合）	小学校			中学校		
	奈良	全国	差	奈良	全国	差
45 国語の授業の内容はよく分かりますか	83.3	84.2	-0.9	79.7	80.1	-0.4
54 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	83.2	84.6	-1.4	73.6	74.6	-1.0
48 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	56.9	63.8	-6.9	48.3	61.3	-13.0
49 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	66.5	71.6	-5.1	64.4	74.6	-10.2
57 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	80.8	82.7	-1.9	71.5	75.8	-4.3
58 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	87.2	89.0	-1.8	79.9	83.5	-3.6

○国語、算数・数学の授業に対する理解度は、全国と比較して1ポイント程度低い。
 ○国語の授業への取組状況についての質問に対する児童生徒の肯定的回答の割合は、全国と比較して低い傾向にある。

3 児童生徒質問紙調査（国語、算数・数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度）の結果概要

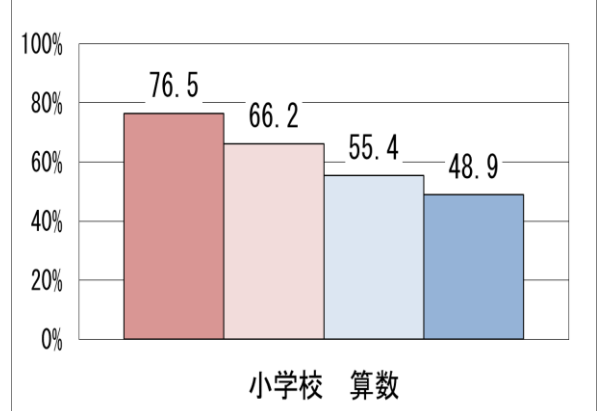
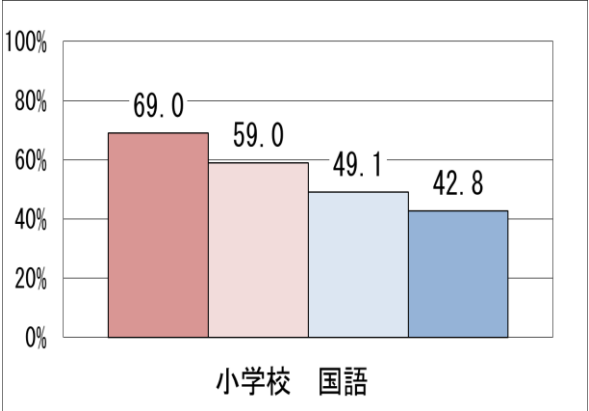
質問事項（数値は肯定的回答の割合）	小学校			中学校		
	奈良	全国	差	奈良	全国	差
45 国語の授業の内容はよく分かりますか	83.3	84.2	-0.9	79.7	80.1	-0.4
54 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	83.2	84.6	-1.4	73.6	74.6	-1.0

（児童生徒質問紙調査の質問事項における、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率）

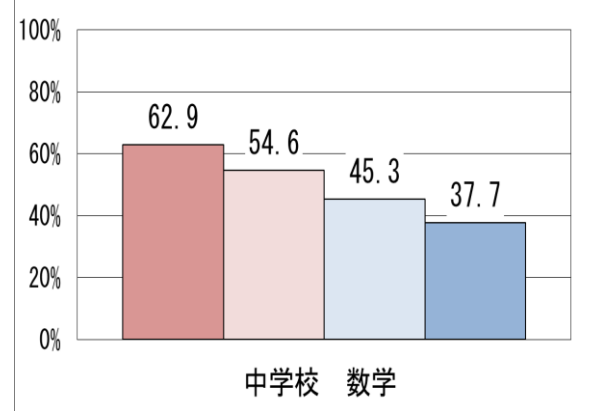
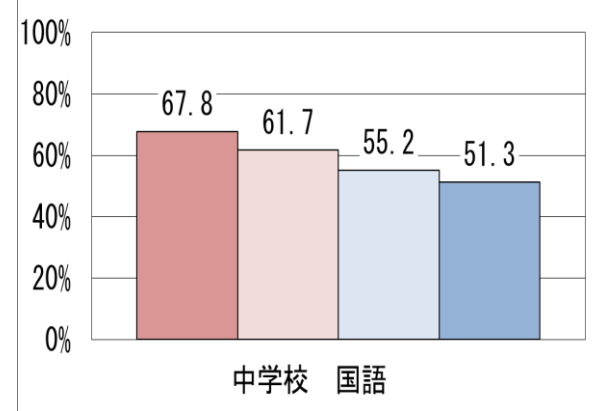
選択肢
 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

国語（算数・数学）の授業の内容はよく分かりますか

小学校



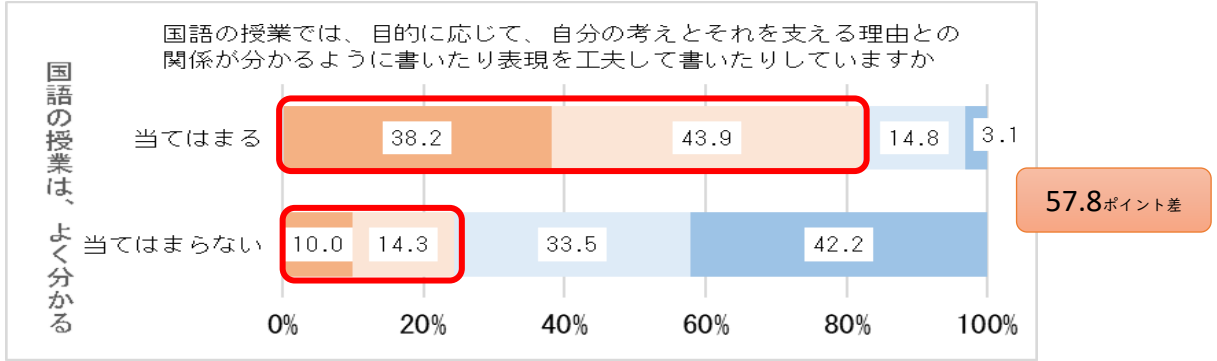
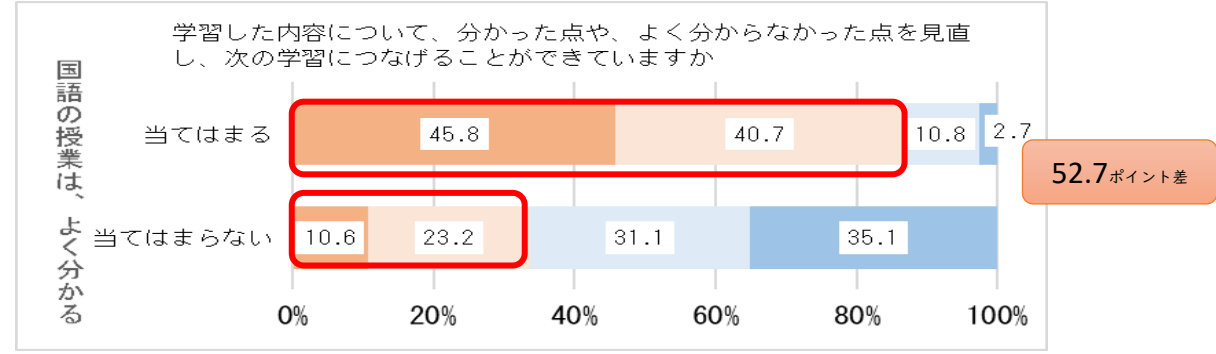
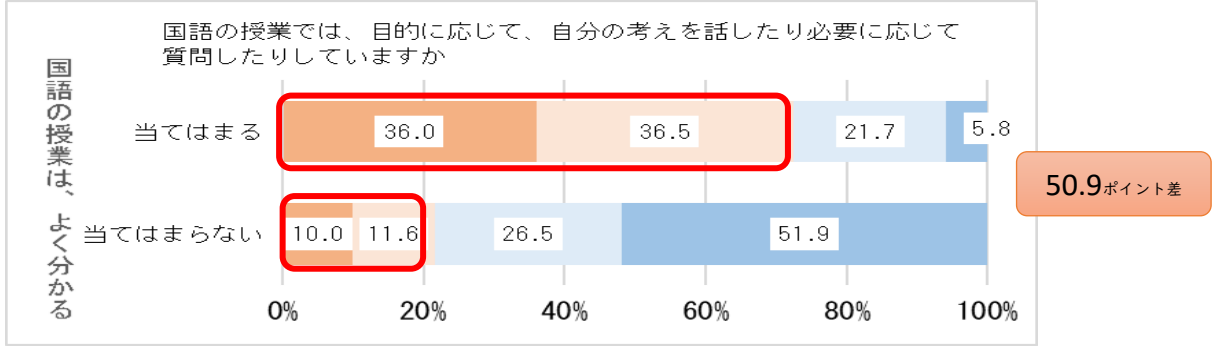
中学校



児童生徒が、よく分かると感じ、国語、算数・数学で育成を目指す力を身に付けられる授業とは、どのようなものか。

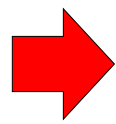
3 児童生徒質問紙調査（国語、算数・数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度）の結果概要

児童質問紙調査の「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問項目と授業改善や国語の学習活動に関する質問項目をクロス集計した。



○「よく分かる」と回答している児童は、

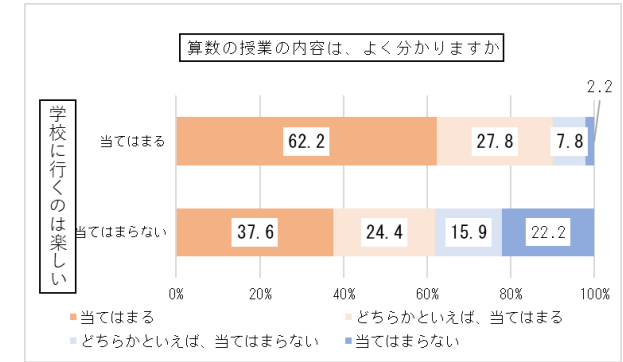
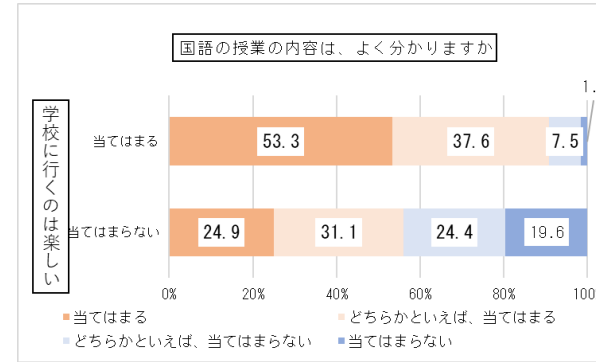
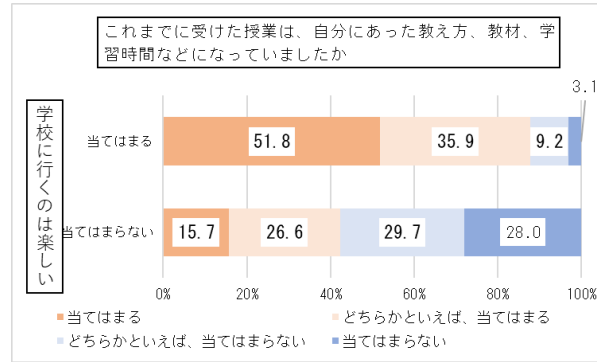
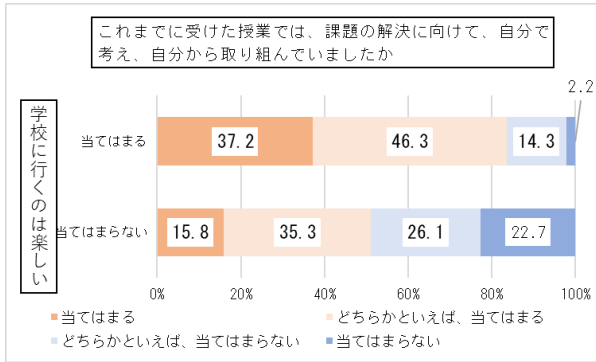
- ・国語の授業において自分の考えを文章でまとめたり、言葉で伝えたりする学習活動によく取り組んでいる。
- ・学んだことを見直し、次の学習につなげている。



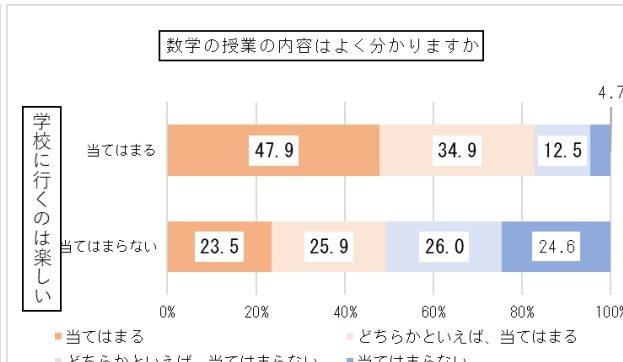
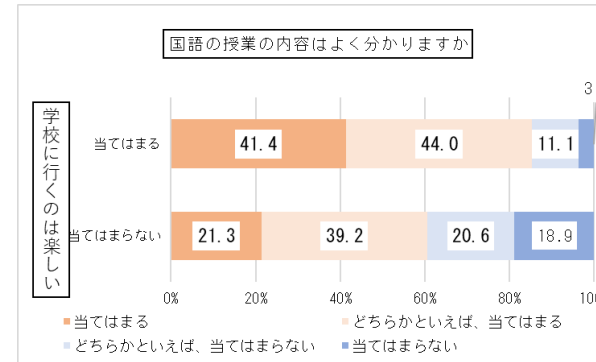
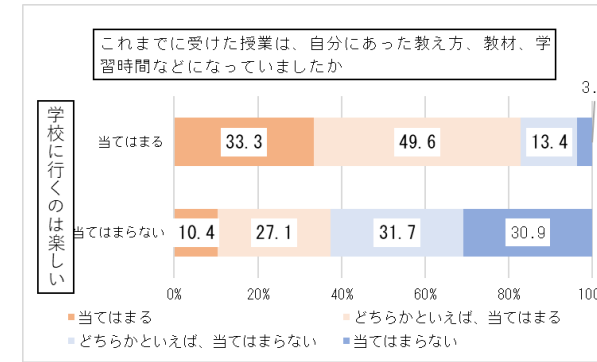
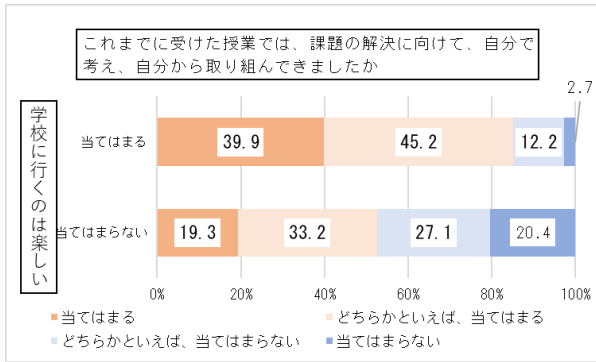
教科の特質に応じた指導や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努めることが、授業の理解を深め、学びの定着につながる。

4 児童生徒質問紙調査（学校適応に関する質問事項）について

小学校



中学校



学校に行くのが楽しいと感じている児童生徒は、
 ○主体的に課題解決に取り組んだり、授業が自分
 自分にあっていて感じている
 ○授業の内容をよく理解している
 等の傾向が見られる。



○児童生徒一人一人の学習状況を丁寧に見取り、「個別最
 適な学び」と「協働的な学び」の充実
 ○各教科等の授業において、さらなる授業改善の推進

5 先生方にお願いしたいこと

児童生徒の学習状況を丁寧に見取り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進めていくこと。

学校適応に関する質問紙調査の結果を児童生徒理解につなげ、必要な手立てを講じること。また、各学校において、挑戦心や自己有用感を児童生徒に育む取組を推進すること。

教科調査における無解答の児童生徒の実態を把握し、必要な手立てを講じること。問題に最後まで取り組むために必要な資質・能力を身に付けさせる取組を推進すること。

本調査の趣旨及び調査結果を全ての教員で理解・共有し、本調査の実施や調査結果を学校の教育活動の改善に生かしていくこと。

令和4年度全国学力・学習状況調査

実施日 : 令和4年4月19日(火)

調査教科 : 小学校・国語、算数、理科
中学校・国語、数学、理科